

「NetApp個人情報保護対策セミナー」に見る データ管理及びセキュリティソリューション

大量データが共有のインフラストラクチャに集積され、セキュリティやアクセス制御がますます複雑化している。個人情報保護法施行に伴い、企業にとって、継続的なデータ管理、データ保護及びセキュリティ維持が不可欠となっている。本稿では、去る4月27日開催された、日本ネットワーク・アライアンス主催の「個人情報保護対策セミナー」で紹介された3社（UDB LINUX ジャパン、Decru、ベリタスソフトウェア）のソリューションの概要をレポートする。

大盛況であった日本ネットワーク・アライアンス（NetApp）主催の「個人情報保護対策セミナー」。本年4月より完全施行された個人情報保護法に対する関心の高さがうかがえた。

開催に先立ち、同社営業統括本部の大坪武憲本部長は、「個人情報の保護は、企業運営の中でも最重要かつ緊急の課題の一つになっています。個人情報の漏洩は、法規制に触れるばかりか、莫大な損失につながります。場合によっては企業運営そ

のものが脅かされることになりかねません。NetAppは、ワールドワイドでさまざまなパートナー様というソリューションを構築させていただいています。その中でも、特に戦略的かつ親密に提携させていただいている3社様に本日はご登壇いただき、それぞれが得意とするソリューションをご説明していただきたいと思います。こういったソリューションと私どものストレージを組み合わせさせていただくことにより、必ずや重要情報の保護にお役に



日本ネットワーク・アライアンス株式会社
営業統括本部長
大坪 武憲氏

たてると確信しています。」と挨拶した。

大容量ファイルサーバの情報漏洩対策ソリューション BC-Cabinet for NetApp

きっかけは、ニイウス・グループの情報セキュリティ強化対策

UDB LINUX ジャパン株式会社の取締役営業推進担当の中井雅也氏は、「情報漏洩対策、最後の砦“ファイルサーバ”をどう守りますか？」と題して、同社が提供する大容量ファイルサーバの情報漏洩対策ソリューション「BC-Cabinet for NetApp」について説明した。同社は、日本IBMと野村総合研究所の合併会社で、金融機関に豊富な実績を持つ東証一部上場企業ニイウス株式会社の100%出資の子会社で、Linuxとストレージにフォーカ

スしたビジネスを展開している。

きっかけは、ニイウス・グループが、個人情報保護法の施行に向けて実施したセキュリティ強化対策である。ニイウスは、主要ユーザーが金融機関ということもあって、情報の取扱いに関し以前からグループをあげて取り組んできた。昨年7月にグループ内のセキュリティポリシー策定機関として「セキュリティ委員会」を設置、本年1月の個人情報保護ポリシーの策定に加え、4月には本社ビルに「指静脈認証入退管理システム」を導入し、セキュリティの大幅な強化を図っている。中井雅



UDB LINUX ジャパン株式会社
取締役 営業推進担当
中井 雅也氏

也取締役は、「1F入り口で指静脈認証後、各フロアではIDカードにより扉が開くということで、充実しすぎともいえる入退室管理を実現しました。」と語る。

各種の情報保護ポリシーを策定

し、各種規定の整備と徹底、社内セミナーや監査の実施に加え、物理的な対策もとっているが、今後は散在する情報へのアクセスをポータルにより一元化することが必要ということで開発しているのが「新情報管理プラットフォーム ブループリント」である。このプラットフォームの主要コンポーネントとして機能するのが、UDB LINUX ジャパンが提供する文書管理ソリューション「BC-Cabinet for NetApp」だ。

容易な操作、アクセス権設定とトレサビリティ、大容量データへの対応が特長

情報の共有 / 管理に対する今日的課題は、ユーザー部門・経営部門・システム部門の相反する課題のバランスをとることである。大量の文書データをファイルサーバに保管していることから、ユーザーは目的のデータが探しにくく、管理・経営サイドにとっては情報漏洩が起こった場合にも問題の追跡調査が困難という

課題に対し、ファイルサーバによる情報管理の課題をバランス良く解決しようというのが、「BC-Cabinet for NetApp」で（スライド1参照）ブラウザベースのソフトウェア「BC-Cabinet」と、サーバ、NetAppストレージを組み合わせたソリューションだ。

「BC-Cabinet for NetApp」の主な特長として、以下の3点があげられる。

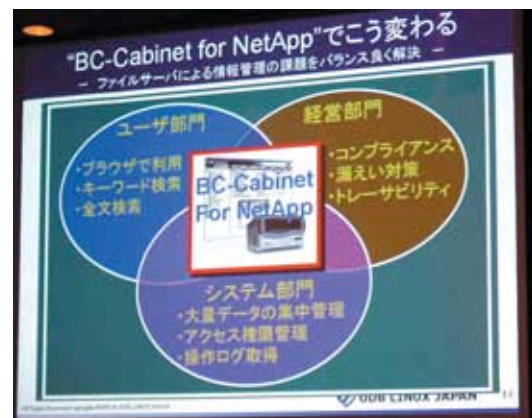
情報を迅速かつ容易に検索できる

ブラウザだけで簡単に情報を登録し、瞬時に検索できる。作成者や日付、文書中のキーワードからの全文検索により情報を取り出すことが可能で、エクセル、ワード、パワーポイント、PDFなど、主要なデータ形式に対応している。

アクセス権限設定で情報を保護。

万が一の場合もアクセス履歴から追跡調査が可能

文書作成者が、任意に情報公開先のユーザーグループを指定しアクセ



スライド1 BC-Cabinet for NetAppの概念

スコントロールが可能。権限のないユーザーにはデータやフォルダが見えないため、不要なアクセスを遮断できる。アクセス履歴により、「トレサビリティ」を高めている。

大容量対応のストレージで、TB級の大量データにも対応可能

NASシェアNo.1のNetApp社の高性能ストレージに対応。クライアントPCに散在するデータを、サーバとNASで集中管理可能である。TB級のデータにも対応可能なスケラビリティに加え、RAID機能で大切なデータも確実に保護することができる。

NAS環境でのセキュリティ強化を図る セキュリティアプライアンス—Decru DataFort—

大量のデータ流出につながる ストレージシステムの脆弱性

米Decru社のビジネスディベロップメント ディレクターの深柄知信氏は「NAS環境でのセキュリティ強化」と題し、同社が提供するストレージセキュリティアプライアンス「Decru DataFort」について説明した。

Decru社は、2001年に設立されたス

トレージセキュリティアプライアンスの専門ベンダーだ。深柄知信ディレクターは、「SANやNASの急速な普及によって、より多くのデータがネットワークにつながり、同時にDR（ディザスタリカバリ）やバックアップで遠隔地にも同じ機密データが置かれるのも当たり前ようになってきました。また、部門IT管理者の管理から、本社



Decru Inc.
ビジネスディベロップメント ディレクター
深柄 知信氏

IT部門管理者やアウトソーサなど、より多くの方々がデータ管理に携わ

るようになってきています。これに伴い、情報漏洩の危険性が増加しています。これまでのようなネットワークセキュリティだけでは、情報漏洩問題には対応できません。ストレージ及びストレージに流れるデータセキュリティを強化することが必要不可欠となっています。」と指摘する。

エンド-エンドのセキュリティを実現する アプライアンス - Decru DataFort -

Decru社は、NAS、SAN、DAS、テープ、iSCSI等の環境下で、透過的でワイヤースピードの暗号化を可能にするストレージセキュリティアプライアンス「Decru DataFort」を販売している。

「Decru DataFort」は、認証・柔軟なアクセスコントロール、セキュアなログ監査機能を持ち、クライアント/ホストからストレージ暗号化(AES-256ビット)までのエンドツーエンドセキュリティを実現する(スライド2参照)。以下に主な特長を示す。

ハードベースのセキュリティ
パフォーマンスを最適化したハ-

ード「DecruSEP (Storage Encryption Processor)カード」を採用、すべてのセキュリティ機能(AES 256bit keyなど)はセキュアなハード内に装備している。これにより、アプライアンス型の安全性と使いやすさを実現している。

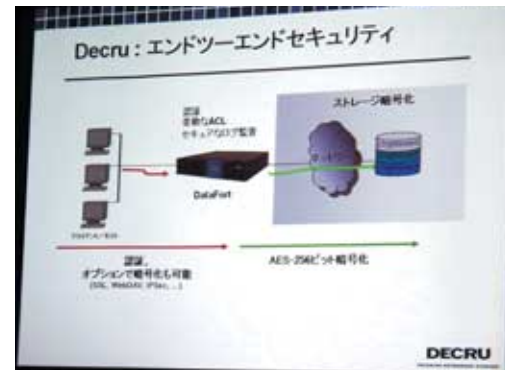
なお、暗号鍵のバックアップ、リカバリ、アーカイブを自動化するセキュアな自動暗号鍵管理インフラ「LKM;Lifetime Key Management」も提供している。

透過なオペレーション

データの暗号化は、パケットのペイロード部分のみ暗号化するので、対アプリ、対サーバ/クライアント、ストレージ、ネットワーク、認証インフラ、ユーザーワークフローに対して透過的に機能する。エージェントソフトも基本的に不要である。

簡易な設定・操作

短時間でのインストールが可能なほか、CLIならびにWebベースの操作画面で簡易な設定・操作が行える。簡易なセキュリティポリシー選択機能も有している。また、ファイルアクセスログ監査機能により、情



スライド2 Decru: エンドツーエンドセキュリティ

報漏洩の追跡が容易に行える。

「Decru DataFort」を活用したストレージセキュリティ強化例として、NASディスク暗号化やテープ暗号化といったメディア暗号化に加え、暗号鍵を部門毎などで使い分けることによるファイルサーバへのアクセスコントロールの強化、ファイルアクセスログ管理、DRサイトへの経路・DRサイトのデータの暗号化によるセキュア災害対策、データベースの暗号化、安全な情報削除(削除したはずのデータもまだディスクに磁気的に残っていて危険。暗号鍵を消すことで永久に解読不可)、必要な暗号鍵を必要なタイミングでシェアするセキュアインフォメーションシェアリングなどがあげられる。

ILMとコンプライアンスを実現するアーカイブソリューション - VERITAS Enterprise Vault -

注目を集める電子メールのアーカイブ
ベリタスソフトウェア㈱ マーケティング本部のソリューションマーケティングマネージャーの大畑正典氏は、「ILMとコンプライアンスを実現するアーカイブソリューション」

と題し、Microsoft Exchange Serverのメールアーカイブを中心に、同社が提供する「VERITAS Enterprise Vault」について説明した。

「コンプライアンス(法令遵守)、データ量の急激な増加(特に電子メ



ベリタスソフトウェア㈱マーケティング本部
ソリューションマーケティングマネージャー
大畑 正典氏

ールは年率70%増)、NetApp社のNearStoreに代表されるような大容量低価格のストレージの登場を背景に、電子メールのアーカイブが注目を集めています。特にコンプライアンスの面では、確実な保存と廃棄、必要な時に取り出せること、データが改竄されていないことが重要です。」と大畑正典マネージャーは語る。

個人情報保護にはさまざまな角度からの対策が必要とされているが、その一つとして今や誰もが使用している電子メールも情報漏洩の出口となり得ることから、その対策も必要とされている。また、ストレージの有効利用、サーバのパフォーマンス向上、バックアップをはじめとする運用負荷の軽減といった観点から、電子メールのアーカイブに対する関心が急速に高まっている。

バックアップ/アーカイブ/ストレージ 管理を統合する VERITAS Enterprise Vault

VERITAS Enterprise Vault は、柔軟性の高いソフトウェアベースのアーカイブフレームワークにより、

- ・電子メールのアーカイブを実現することによるリスク管理とコンプライアンス
- ・プライマリとセカンダリのストレージを使い分けることによるストレージ利用の最適化とコスト削減
- ・データ量の削減、パフォーマンス向上、管理性の向上、バックアップ時間の短縮など効率的な運用
- ・情報リポジトリによる情報へのシームレスなアクセスと情報共有
- ・容易かつ安全なマイグレーション

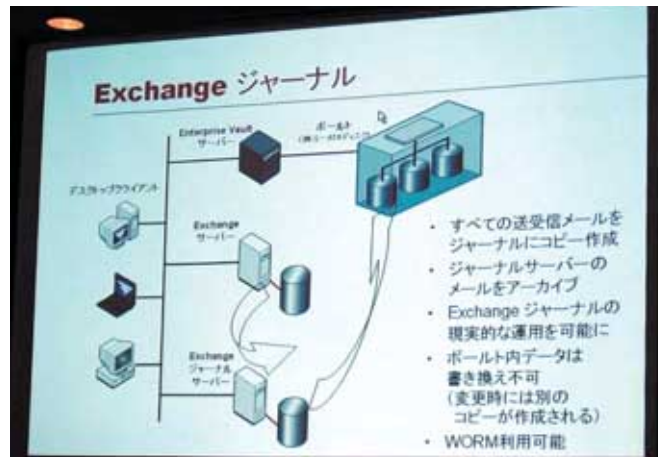
を実現している。

例えばストレージ利用の最適化についてはExchange ServerのInboxの古いメッセージを、ポータルに圧縮/移動し、インフォメーションストアのサイズを削減し、パフォーマンスの向

上、バックアップやリカバリ時間を短縮。ユーザーは、インフォメーションストア上に残るショーカットを使い、ポールのデータにシームレスにアクセス可能となっている。「ポールにNetApp NearStoreを組み合わせるのが最も効果的なソリューションであると考えています。」(大畑正典氏)

また、情報漏洩のリスク要因ともなるPSTファイルのマイグレーションが可能となっている。個人のデスクトップやファイルサーバー上に保存しているPSTファイルを、ポールに移動し、一元管理することで、管理コストを削減し、予期しないデータの喪失・漏洩を防ぐことができる。シングルインスタンスストレージ機能により、複数のPSTファイルに含まれる同一のデータのコピーを1つだけ保存するので、トータルのストレージ容量を大幅に削減することが可能だ。

さらに、Exchange Server 2003が標準で持つジャーナル機能と組み合わせることで、すべての送受信メー



スライド3 VERITAS Enterprise VaultのExchangeジャーナル機能

ルをアーカイブし、情報漏洩への抑止力を発揮するとともに、万一情報漏洩が発生した際には素速い特定が可能になる。ポール内にアーカイブされたデータは、書き換え不可となっている(変更時には別のコピーが作成される)。このため、メールアドレスの改竄は不可能である。またNetApp NearStoreのWORM (write once, read many) 機能と組み合わせることで、電子メール保存規制にも適合し、コンプライアンスの実現が可能だ(スライド3参照)。

このほか、VERITAS Enterprise Vault は、強力なフルインデックスの検索エンジンが搭載されているので、ユーザーはアクセス権があるすべてのアーカイブを検索することができる。詳細な条件検索をすることも可能である。

お問い合わせ先

日本ネットワーク・アプライアンス㈱
マーケティング本部

E-mail : info@netapp.co.jp

URL : http://www-jp.netappcom/